

【議事録】第3回 乙川リバーフロント懇談会

日 時：平成26年1月22日（水）14時00分～16時00分
会 場：市役所福祉会館6階 大ホール

概要

第5回リバーフロント部会で議論された「乙川リバーフロント地区整備の基本方針策定のための提言書」について、アドバイザーから助言をいただき、乙川リバーフロント整備計画を実効性のあるものへ高めていくため、岡崎活性化本部による第3回乙川リバーフロント懇談会が行われた。

議事内容

1 開会

事務局より開会宣言。

2 あいさつ

座長より下記のとおり、あいさつを行った。

- ・ 市政だよりに当懇談会の案内を掲載したため、一般市民の参加もあり、盛大な形で開催することができ、光栄である。
- ・ 乙川リバーフロントアイデアコンクールの応募が約2400あったと聞いており、乙川のリバーフロントは大きな関心の的であると改めて感じている。そのような大きな声に応えることができるよう、責任感をもって展開していきたい。

3 議 事

(1) 基本方針の提言書（素案）についての説明

事務局長より、基本方針の提言書（素案）について説明を行った。

(2) 意見交換

座長

- ・ 最後の懇談会として、アドバイザーからお一人ずつご意見いただきたい。

アドバイザー

- ・ 市長がツインブリッジを提案してきたところだが、部会の提案として提言書のⅡ基本方針提言1と2で橋等もご提案いただき、行政として前向きに検討していきたい。

アドバイザー

- ・ 川を中心にまちづくりをしていこうとご提案いただいたことに敬意を表したい。役人では考えつかないこともご提案いただいた。
- ・ 実現にむけては、市民や行政など役割分担する必要がある。今後もこのような議論の場を設ける必要はあると思う。

- ・良かったなと思うところは、外からの人を意識した観点をに入れていただいたことである。

アドバイザー

- ・色々なご提案をいただいた。
- ・実現に向けては、様々な課題があると思うが、市民、岡崎市、県も含めて、みんなで一生懸命前向きに議論できるといいと思う。

座長

- ・全国的には、陸橋だけでなく信号までもなくして、その結果事故が減少している例がある。
- ・人に優しいという観点から、陸橋を含め、景観に関する点を重視して進めていけたらと考える。

アドバイザー

- ・外の立場から見て、提案されたことは全て実現可能ではないかと思う。
- ・最後に協議会の設置や、部会の設置など今後の進め方についても提言されているのがよい。
- ・編集の体裁だが、提言を前に出して、現状と課題については後ろにもっていった方がいいのかなと、思う。

座長

- ・今年で終わりではなく、アドバイザーには今後ご助言いただきたい。
- ・アイデアコンクールでは 2,000 を超える多数の応募があった。この熱意を受け止めて、アイデアをくみ上げていく必要があると思う。
- ・岡崎城について何回もでてくるが、それらの整合性はとっていく必要がある。
- ・P19 の四天王像については市長の提案ではリアリティのあるものであるが、部会では現代性というのを加えさせていただいたので、その整合を図っていく必要がある。
- ・岡崎公園の名称もりぶらの時と同様に、公募できるとよい。
- ・歴史性ととも環境という観点も重要なキーワードだと思う。
- ・あくまでも新橋の提案をしているわけだが、今までの通過交通としての橋ではなく、遊歩道的な意味で提案している。橋という名前をつかっているが、回遊性の確保、遊歩道という意味合いで捉えていただきたい。
- ・乙川合流点への延伸というところに、よい風景の農地を遺す、というような意味合いも入っている。
- ・新橋も幅広いコンペの実施を考慮して進めていただきたい。
- ・我々部会の提言の先に行政の決定、対応があるが、かけるべき必要最小限の時間も大切。当初は 28 年事業着手という工程であったが、いろんな方の熱意で 1 年ほど前倒しになっており、丁寧に議論して進めていきたいということを私見も交えて述べさせて頂く。

部会員

- ・予算をもっとかけていただきたい。
- ・私はアートを専門としているが、彫刻などを誰につくってもらうかということが大事になってくる。
- ・四天王だけをもってくるということだけではなく、東岡崎駅前に家康像も必要になるかもしれないし、広く市民にお願いするという部分も必要ではないか。

アドバイザー

- ・行政としてお金をケチるという事はない。リバーフロント地区整備は、市役所としても最重要課題であるので、提言の全てについて前向きに検討していきたい。ただし、大部分は税金をつかうことになるかと思うので、議会や市民の皆様の理解を得ながら進めさせていただきたい。

部会員

- ・そういうことではなく、市民を巻き込んで欲しいというお願いである。市民自体ができないにしても、民間の団体をつくるなりして、そこで市内に彫刻をつくろうよ、ということになるなど、そちらのほうがり上がるのではないか？

部会員

- ・家康公 400 年顕彰などもあり、彫刻の面でも石屋さん達の協議をしながら進めていきたいと思うし、民間の方々と協力していきたいと思っている。

事務局長

- ・お寺や神社はそういうことをしている。公共空間において、寄付を集めるということはありませんでした。そのあたりについて、もう一度今後検討したいと思っており、活性化本部としても仕組みなど提案したいと考えている。

アドバイザー

- ・市としても今後検討させていただく。

部会員

- ・石屋さんも素晴らしい技術を持った方はいると思うが、岡崎だけに限らなくてもよいと思う。広く外の能力のある方にやってもらったり、外の有能な方と岡崎の石屋とのジョイントなどをやったりするとよい。

座長

- ・当初市長が提案するようなリアリティのある武士像がいいのか、岡崎市内にも著名な彫刻家もいる。

部会員

- ・岡崎を離れて、ということを再三言っている。岡崎にとどまっては所詮その程度しかできない。

副部長

- ・今まで出てきた意見も網羅されており、よくまとまっていると感じる。事務局の方には感謝を表したい。
- ・この内容を時間をかけ、責任を持って取り組んでいきたいと感じる。
- ・この地でやっていくにあたり、リバーフロントでつなげていく必要があるという提案であったが、回遊性をいかに確保するかということが重要だと思う。
- ・歩ける空間づくりを優先事項として、今後肉付けをしていきたい。
- ・また、提言書は文字になっているが、今後実現に向けては、ヴィジュアルによる整理が必要。空間デザインにあたっては、専門の方によるコンペを是非やれたらいいと思う。

部会員

- ・素案はすごく大きな流れと細部も表現されて素晴らしいと思った。
- ・質感が異なると都市の風景も全然違うということもあるので、質感など細部まで気を遣

ってつめる必要があると思う。コンペなどで複数の案をみていくことは重要だと思う。

部会員

- ・この会議を通じて思った事は、岡崎市民の誇りが集まっているのがリバーフロント地区。
- ・これをどう再構築していくかということだが、大方間違っていないと思う。
- ・この中で、いかに市民を巻き込んでいくかが大事ではないかと思う。

座長

- ・ふるさとについての考察であるが、ふるさとというのがいかに大事かということで参考にしてほしい。
- ・コンペという話でいくと、コンペの応募者も実際に現地にくるということで、非常に大きいと思うし、いろんなアイデアがでてくると思う。

部会員

- ・岡崎というところはやる気まんまんだということを実感した。
- ・また、私は他の観光地のアドバイスもしているが、ハードの使い易さというのは非常に自慢になるということを感じた。
- ・観光産業ということを出したことにびっくりしている。是非、人材育成、地域育成をいうものをしてほしい。そうしないと長続きしない。橋ができるころには、30代、40代の方が中心になった担い手を育ててほしい。

座長

- ・観光産業の分野で、「人」が占める重要性の割合はどれくらい？

部会員

- ・人は100%だと思う。

座長

- ・今回の提言にはハードとソフト両面ふくめているので、そういうことである。

部会員

- ・行政からもプライオリティをもってすすめていただけるということで、協力していきたい。
- ・弊社はアーバンリゾートホテルを目指しているので、ホテルとしても重要視している。

部会員

- ・魅力的な場所にはストーリーがあると思う。ストーリー性を実現していただきたい。

部会員

- ・多くの観光に関する重要な提言があった。行政だけで進める事は難しいので、官民一体となって進めていきたい。
- ・橋の位置については花火の栈敷もあるので検討の必要があると思う。

アドバイザー

- ・コンペのイメージはどのようなものを想定しているか。

副部長

- ・審査の顔ぶれと、広報が重要。審査は、岡崎の顔ぶれと、土木、建築専門家など。
- ・できれば国際コンペにできればいいとおもうが、時間と予算の制約があるので、大学などに働きかけるという手もある。

アドバイザー

- ・アイデアコンクールで色々なアイデアがあつまっているので、折角の市民のアイデアを活かすのもよいのかなと思っている。

副部長

- ・今後長く残るものでもあるので、なるべくいろんな意見を取り入れるのがよいと思うし、コンペ自体も広報の一つになるという

アドバイザー

- ・できることは早く進めていきたいと思うが、できるだけ幅広く意見をききたいということで、そのせめぎ合いかなと思っている。

アドバイザー

- ・北九州市の紫川などは地域の発想が実現されており、郷土愛につながっている。私はその市民のアイデアをふまえて、部会でもんでというのがよいと思う。
- ・東京では、オリンピックに関連した国立競技場の再建について、地域にあっているか、ということが問題になっている。国際コンペをすると、歴史性をどこまでふまえてくれるか、ということが問題になると思う。

市民（傍聴席）

- ・広く浅く、非常によくまとめられていると思う。
- ・今回の提言のなかに、岡崎らしさ、ということがあまり入っていないのではないかと思う。「リバーフロント」ということで水辺に固執しているのではないか。
- ・道路は目的があって人が通るもの。13頁で「避ける」という文言があるが、旧岡崎市街の方向性を逃げずに提言してほしい。

(3) 乙川リバーフロントアイデアコンクールについて

- ・事務局長より、乙川リバーフロントアイデアコンクールの代表作品について紹介をした。
- ・1/27に一次審査、2/3に二次審査を行い、入選作品を選定予定。

アドバイザー

- ・審査の基準は提案としておもしろいかどうか、ということでよいか？

事務局長

- ・そのとおりである。

部会員

- ・アイデアコンクールはいろんな方が出されており、このアイデアを提言書に反映していくということは必要だが、実際には構造美や質感などを考慮する必要があるので、

アドバイザー

- ・実現性をみながら選んでいくという方向性もあるかと思う。

部会員

- ・そういうこともあると思う。

アドバイザー

- ・部会にいろんな専門家がいるので、部会メンバーで選定すればいいのではないか？

事務局長

- ・ 27日の一次審査には部会員も参加していただく予定である。

座長

- ・ アイデアの部分も示してコンペを行うという方法もある。ネームバリューのある人たちが設計した建築物が人を呼ぶということは現実としてある。今後観光産業都市を目指す上では、コンペを考えていくという余地もあると思う。

アドバイザー

- ・ まだ新橋をかけるということは決定していないので、事務的な細部もつめながら今後相談させていただきたい。

4 閉 会

事務局より閉会のあいさつを行った。

以上